



患者さん本位の医療を まず第一に考えて

昨年末、診療報酬改定が決定され、病院・患者さんともにきびしい内容となりました。そんな状況のなか、当院ではサービスの維持と向上をめざし、診療レベルをしっかり維持していくことを目標として、今年も努力していきたいと考えています。



せんぼ東京高輪病院 副院長 出川 敏行

Contents

・患者さん本位の医療を
まず第一に考えて
副院長 出川敏行

・診療科のご紹介
眼科

慢性疾患や最近増加傾向にある疾患も力を入れて診療しています

耳鼻咽喉科

患者さんのニーズに応えるようにしています

歯科口腔外科

口腔外科疾患をはじめ、通常の歯科治療、有病の方の治療にも取り組んでいます

小児科

こどもの立場に立って、医療を行っていくことがモットーです

・NEWS & NEWS

糖尿病教育入院が始まります
クリスマスコンサートが開催されました
第2回マナー&エチケットセミナーの開催



第2回マナー&エチケットセミナー

謹啓

向春の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、医療改革の一環として昨年末に2006年度の診療報酬改定が決定されました。診療報酬本体1.36%減、薬価・材料費1.8%減と合計3.16%のかつてない大幅引き下げであります。また、現役並みの所得がある高齢者には、患者負担を2割から3割に引き上げるといふ病院にも患者さんにも痛みを強いる内容です。しかしながら、我々は患者サービスの維持・向上を図り、診療レベルの低下を招かないよう不断の努力をしていく所存です。

さらなる病診連携の強化へ

医療改革では、今後の設定すべき政策目標として生活習慣病予防の重要性が掲げられました。そのためには地域住民の皆様の健康を地域社会全体として支える医療環境が必要です。生活習慣病の早期発見のために地域住民に健診を促すだけではなく、生活習慣病予防の実効を得るために、生活指導を専門的に行う病院と診療所・クリニック間での患者さんの紹介がスムーズにできる病診連携システムを強化することが大事だと考えています。診療所・クリニックでの健診で発見された高血圧、高脂血症、糖尿病予備群のリスク評価と生活指導には、当病院に備えられた頸動脈エコー、動脈硬化試験(PWV/ABI)をぜひ役立てていただきたいと思っております。また、諸先生方が診察なさっている糖尿病患者さんの合併した心血管病対策においても、冠動脈CT、トレッドミル検査、心エコー検査などをご利用していただき、ハイリスク例の検出に役立てていただきたく思っております。メタボリックシンドロームの概念に基づくリスク評価、生活栄養指導、さらにハイリスク患者の治療に当院は徹底して取り組んでいきます(生活習慣病における保険適応は200床未満の病院です。251床の当院は患者さんの負担増とならずに生活指導が可能です)。

喫煙は肺癌予防のみならず高血圧、高脂血症、糖尿病などと並ぶ生活習慣病の重症化予防の重要なターゲットです。当院では自主的な禁煙の試みを積極的に支援するため、呼吸器科医師に

よる禁煙支援も積極的に行っています。喫煙は治療すべき疾患ともいえます。地域住民の喫煙率の低下を目標とし、診療所・クリニックの諸先生方といっしょに禁煙に取り組んでいきます(なお、ニコチン依存症に対する禁煙指導の保険適応は構内禁煙施設のみですが、当院は病棟内禁煙です)。

信頼される医療の質をめざして

諸般の事情により、延期されておりました病院機能評価に向けての取り組みも再開されました。当院は医療の安全と質の向上をめざして、安全管理対策委員会、感染防止対策委員会、専従管理者のもとでの褥創(床ずれ)対策委員会などをすでに円滑に運営しております。さらに、がん化学療法委員会を立ち上げ、がん化学療法のレジュメの設定、その安全なる運営を旨としております。これにより、化学療法の標準化が計られ、他病院からの患者さんの受け入れが可能になると考えられます。

臨床的な診断や治療はともすれば個人の経験や慣習に左右されることがよくあります。

当院では、患者さんより信頼される医療の質を旨としてエビデンスに基づいた医療を実践すべく全ての医師が努力を払っています。その一環として各科において積極的にクリニカルパスの導入を図っており、在院日数の短縮と医療の標準化を心がけています。

強いチームより勝てるチームを旨として

昨今の病院ランキングブームとは、いかなる現象なのでしょう？ 症例数が多ければ、医師のスキルが上達し、良い成績を残せるのは当然のことです。しかし、先生方には、こんな経験がないのでしょうか？ 4番バッターをそろえている立派な大病院に患者さんを紹介されても、どの(程度の)先生が診てくださるか、さっぱりわからないなど.....。

私も病診連携として他の病院に患者さんをご紹介することも多々あります。紹介先の病院で、部長先生と一度も顔をあわせなかったなどと、帰院後に言われることもあります。

我々の病院では、勝てるチーム医療を旨として各科の連携を良くして患者さん本位の医療を行っていきます。医療の現場では、チャレンジする気構えが必要なこともありますが、まずは患者さんの苦痛をとり除き、治療し、そして社会復帰をすることを第一目標にして全職員一丸となって頑張ってまいります。

診療科の紹介 眼科

慢性疾患や最近増加傾向にある疾患も力を入れて診療しています

眼科部長

よしすじ まさお
吉筋 正雄



糖尿病網膜症、高血圧性動脈硬化性網膜疾患、白内障、緑内障などを中心に、アレルギー性結膜炎やドライアイ、眼精疲労などの最近増加傾向にある疾患にも力を入れて診療していこうと考えています。

糖尿病網膜症・高血圧性動脈硬化性網膜疾患

糖尿病や高血圧性動脈硬化性疾患のある患者さんについては、糖代謝内科・循環器科との連携を保ちつつ、協力して網膜症等の診療に臨んでいます。また、マルチカラーレーザー装置を用いた網膜光凝固術についても、適応のある疾患・症例について、積極的に施行しています。

白内障

患者様のQOLを尊重し、客観的な白内障進行度・視力とあわせて、手術適応を検討しております。また当院では、片眼について、1泊ないし2泊程度、両眼では4泊ないし5泊程度の入院で白内障手術を施行しております。後発白内障に対しては、YAGレーザー後囊切開術を施行します。

緑内障

緑内障点眼薬投与による眼圧コントロールを中心に、視神経乳頭所見、視野検査、眼圧検査などでフォローアップしております。浅前房・狭隅角がある方で閉塞隅角緑内障のハイリスクの患者さんには、積極的にレーザー虹彩切開術を施行しております。

アレルギー性結膜炎とドライアイ

双方の疾患が合併している場合が比較的多いので、患者さんの訴えに耳を傾け、慎重に前眼部角結膜所見を観察し、適切な治療を旨としています。また、コンピュータの長時間使用に伴う、ドライアイ・眼精疲労の合併もよく目にします。適切な屈折矯正とともに、涙液コントロールも重要と考えます。

眼科外来は、月・火・木曜が二診、水・金曜が一診、土曜は—または二診となっておりますので、予約なしで受診される場合は、なるべく二診の月・火・木曜にお願いいたします。緑内障・視神経乳頭陥凹拡大（疑い）でご紹介いただく場合、地域医療連絡室を通して「眼科ハンフリー外来」に予約を取りますと、患者さんをお待たせする時間が短縮できますので、よろしく申し上げます。



なかむら しんいち
中村 真一 眼科医長

診療科の紹介 耳鼻咽喉科

患者さんのニーズに応えるようにしています

耳鼻咽喉科 部長

わたなべ ごろう
渡辺 悟郎



最近の耳鼻咽喉科は、気管食道科や頭頸部外科を標榜している施設も多いようです。私たち常勤医師2名は鼻アレルギー、副鼻腔炎、滲出性中耳炎、急性や慢性中耳炎を中心に治療を行っていますが、時には救急で鼻出血、扁桃周囲膿瘍、食道異物の患者さんが来院することもあります。

現在、基本的には悪性腫瘍は取り扱っていませんが、耳下腺腫瘍や甲状腺腫瘍などの手術は行っています。難聴の相談も多いのですが、精密な聴力検査を行い、患者さんに対応しています。場合によっては、補聴器が必要なこともあります。

鼻アレルギー

最近話題のスギ花粉症は薬物治療を中心に、減感作治療やレーザー治療も行っています。

副鼻腔炎について

慢性副鼻腔炎は手術を行います。内視鏡手術で鼻内からアプローチします。

中耳炎について

急性や滲出性の中耳炎の子供の難治化が問題になっています。安易な抗生剤の投与ではよくなりません。鼓膜切開やチューブ留置が必要です。慢性中耳炎でも単純穿孔であれば、入院4日位で鼓

膜形成術を行います。大きな穿孔や真珠腫は入院3週間で鼓室形成術を行います。

難聴について

伝音性難聴は治療の対象になりますが、感音性難聴は基本的には治療の対象になりません。補聴器などが必要です。しかし感音性難聴でも突発性難聴は早期であれば治療によく反応し改善が期待されます。

今後とも地域医療に貢献できるように、微力ながら努力していくつもりです。耳鼻咽喉科に関係することならなんでも相談していただければと思います。よろしく申し上げます。



もちづき ゆういちろう
望月 優一郎 耳鼻咽喉科

診療科の紹介 歯科口腔外科

口腔外科疾患をはじめ、通常の歯科治療、有病の方の治療にも取り組んでいます



歯科口腔外科部長

よし や まこと
吉屋 誠

歯科口腔外科の概要

当科における昨年度の新患者数は1533人で、そのうち紹介患者数が627人。紹介率は約40%を占めておりました。その内訳は埋伏歯・有病者の抜歯が最も多く、嚢胞、顎関節症、口腔粘膜疾患がそれに続いていました。年間入院症例は約80例で嚢胞が35%、顎変形症が20%、歯牙歯周疾患が20%、腫瘍が10%、外傷が10%を占めております。スタッフは橋樹医師と2人で、手術がある毎週水曜日は豊島医師が非常勤として外来診療に当たっております。

顎変形症の治療

歯科矯正治療だけでは改善が難しい咬合不全や審美障害が手術の対象になります。歯科矯正医とあらかじめカンファレンスを行い、下顎枝矢状分割術、下顎枝垂直骨切り術を中心に上顎骨切り術も施行しております。貯血式自己血輸血を採用して下顎単独例は400g、上下顎同時移動術の場合は800g貯血しております。骨接合は口腔内からチタンミニプレート固定を行っておりますので、顎間固定は1週間と短縮され患者さんの早期社会復帰に努めています。

最近、顎骨骨折整復手術に応用していた吸収性ミニプレートも導入しましたので、撤去手術が不要になった症例もあります。また、補助的手術として舌縮小術、頤形成術、矯正治療用アンカープレート植立術も行っております。

インプラント治療

ITIとIAT FIT システムを導入しております。まずDental CTを撮影して骨幅や密度から適応を診断し、ブランクコントロールを学習会得していただいてからインプラント埋入手術を行います。通常は外来手術ですが、難症例では入院していただき静脈内鎮静法を併用することもあります。また、上顎臼歯部の骨量が少ない症例では、全麻下に自家腸骨海綿骨移植による上顎洞挙手術を施行する症例もあります。埋入後3～6ヵ月で骨との接合が確認されてから上部構造物が装着されます。

最後に当科では緊密に連絡を取り合いながら病診連携を推進していく所存でございますので、今後ともよろしくご依頼申し上げます。



たかはろ ひではる
橘樹 秀春 歯科口腔外科

診療科の紹介 小児科

こどもの立場に立って医療を行っていくことがモットーです



小児科部長

つじ ゆういちろう
辻 祐一郎

こどもを取り巻く環境の厳しさが増すなか、われわれ小児科医のやるべきことはますます増えてきております。医療に限らず、こどもたちのために、われわれができることすべてをやっていこうと考えております。つねにこどもの立場に立って、医療をおこなってゆくことがモットーです。病気のときだけでなく、どんなときにも立ち寄りもらえる小児科外来にしたい、と考えております。

現在当院では、小児の入院医療を行っておりませんが、小児病棟を持つ周辺病院との連携に努めており、どのような患児が訪れても対応できるようにしております。従って、入院を要する患児には、当院で必要な検査、処置を行ったうえで、入院施設を持つ

病院への紹介を行っておりますので、入院適応の判断が困難な場合でも、ご紹介いただければしっかりと対応させていただきます。現在私のほかに、市橋医師が乳幼児健康診断と小児神経発達外来を、森田医師が小児精神心理外来を行っております。また本年4月より、野村医師がアレルギー外来を開院いたします。

当院には、CT、MRI、脳波、超音波、核医学検査などの生理学検査、放射線医学検査施設が充実しており、小児においても対応させていただきます。検査のみご希望の場合でも対応させていただきます。より患者ニーズにあった形で、小児科外来診療を充実させていこうと考えております。どうぞよろしくご依頼いたします。



いちはし
市橋 いずみ 小児科



もり た こうじ
森田 孝次 小児科

NEWS
&
NEWS

糖尿病教育入院が始まります

永らくお待たせしておりました糖尿病の教育入院が4月から本格的に開始されます。画像・血液検査と栄養指導による食事療法、運動療法を中心とした内容になっています。月～水曜日、木～土曜日いずれかの2泊3日のコースです。詳細につきましては、地域医療連絡室（3443-9576）までお問い合わせください。

NEWS
&
NEWS

クリスマスコンサートが開催されました

昨年暮れの平成17年12月21日、外来エントランスホールにて、港区白金台 頌栄女子学院の、ハンドベルクワイヤー・聖歌隊によるクリスマスコンサートが行われました。

コンサートは毎年12月に開催され、同女子学院によるコンサートは今年で5回目を数え、年末恒例の楽しいイベントとなっています。

当日は入院されている患者様約60名ほどお集まりいただき、午後4時30分からハンドベル演奏による「りんごの唄」から始まりました。「夕焼けこやけ」「青い山脈」と日本の歌が美しい音色で演奏されると、患者さん方は懐かしそうに耳を傾けていらっしゃいました。

続いて聖歌隊による合唱、再びハンドベルの演奏があり、最後に全員でクリスマスのうたを合唱し、コンサートが終了しました。終わりに生徒さんから手作りのクリスマスカードが入院患者さん全員に配られました。入院されている方々は、ほっとするひとときを提供できたと思っております。



NEWS
&
NEWS

第2回 マナー&エチケットセミナー

平成18年2月6日、午後7時から外来エントランスホールにて第2回港区医師会・当院合同マナー&エチケットセミナーが開催されました。

この催しは昨年2月に初めて開催されて非常に好評でしたので、継続して開催してほしいと望む声をうけて行われたものです。当日は診療を終えられた地域医療機関の先生、スタッフの皆様にご参加いただき、当院職員あわせて約100名が一堂に会して行われました。

講師は元日本航空の客室乗務員の大島昭子先生、研修テーマは「患者本位の医療接遇 あなたの人間関係力が、病医院のサービスを決める」です。

研修の開始早々は緊張していた参加者も先生の「握手による挨拶」をまわりの方々とかわすうちに和やかな雰囲気となり、講演が進みました。

多くの事例をテーマに、患者さん側からみた病・医院スタッフのあり方に関する講演が続き、予定時間を超えてセミナーは終了しました。

地域医療連携にとっても非常に有意義な研修でした。今後も引き続き開催する予定ですのでご案内の節はよろしくお願いたします。



編集後記

年が明けて、早いもので2ヵ月が過ぎようとしています。大寒波の襲来で、例年になく寒い厳しい冬もそろそろ終わりを告げようとしています。

医療を取り巻く環境は、診療報酬のマイナス改定という波に

より、依然としてほっとする間もないようです。今年も昨年以上に地域医療連携強化に向け、職員一同取り組んでいく所存です。

遅くなりましたが、なにとぞ本年も「せんぽ東京高輪病院」をどうぞよろしく願い申し上げます。